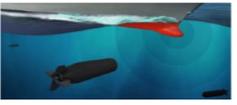


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -129	2023/6/30	See—But Verify	見よ—しかし検証せよ	Proceedings 2023/6/30	 Aiのフェイク画像をいろいろと実際に作って、警鐘を鳴らしています。プロシーディングス誌6月号から。	岩崎洋一
2023 -130	2023/7/4	Engineering duty officer	エンジニアリング・デューティー・オフィサー(技術士官)	From Wikipedia, the free encyclopedia 2923/7/4	  海上自衛隊の艦船装備幹部に相当する米海軍の EDO の説明です。米日の艦艇規模を考えれば、EDOの全体数は極めて少数です。この理由は、もともと少数精鋭であることに加え、ほとんどの現場業務はシビリアンや下士官兵、民間人に責任を委ねているからと思われます。新しくできた徽章のことにやたら焦点を当てていますが、EDOは著名人のところにもあるように、南北戦争から続く、歴史ある職種です。日米の比較をするうえでひとつの参考になると思い、ご紹介します。Wiki情報なので、その点をご承知おきください。	岩崎洋一
2023 -131	2023/6/30	India Gives Vietnam a Warship in Response to China's Regional Actions	中国の地域的行動に対抗して、インドがベトナムに軍艦を寄贈	MARITIME EXECUTIVE 2023/6/30	 インドが、ベトナムへ就役後30年を経た艦船を引き渡したという記事です。艦齢30年の艦が立派な戦力になるという事ですが、我が国の装備移転も、「きり」型、「あぶくま」型の引き渡しをパッケージングで検討する事が現実的ではないでしょうか。	川原梅三郎
2023 -132	2023/6/30	Countering the threat from autonomous underwater vehicles	自律型水中航走体の脅威に対抗する	Navy Lookout 2023/6/30	  各種用途のUUVの開発と戦力化の進展に伴い、その脅威が漸増していることは想像に難くありません。本編は脅威が増加しつつあるUUVへの対抗策を考察したものです。UUVを使用する側としては、人的被害局限が図られ、歓迎されるものです。しかし、それを遣わされる側としては、適切な対応策を準備していく必要が生じてきます。確かに既存のASWシステムでは対応できない場合も想像されます。盾と矛の例え同様に、UUV開発に当たっては、その対応策も同時に開発しておくことが重要になってくると思いました。	本山泰之
2023 -133	2023/7/6	French Navy Submarine 'Perle' Is Operational Again	フランス海軍潜水艦「Perle」が再び運用状態に	Naval News 2023/7/6	 2020年に発生した火災で前部区画に大被害を被った仏原潜Perleが船体を半分に切断し、除籍済み同型艦の前部船体を切断して付け替える大工事を行いました。除籍済み艦を再利用するとは大胆な決断です。いわゆる除籍のロジックはどうなっているのでしょうか？日本でも「あさしお」の船体を切断してAIP区画を挿入する改造工事を行ったことがありました。	佐々木司
2023 -134	2023/7/3	General Atomics develops next generation submarine propulsor	ゼネラルアトミックスが次世代潜水艦用推進器を開発する	Naval Technology News 2023/7/3	 ゼネラルアトミックスが次世代の潜水艦用推進器として、推進効率向上とシグネチャ低減を重点にポンプジェット型を開発するようです。	清水隆
2023 -135	2023/7/7	First Australian Sailors Graduate from Nuclear Power School, Set to Serve on U.S. Navy Subs in Hawaii	豪州海軍士官が米原子力学校を卒業、ハワイの米潜水艦で勤務に	USNI News 2023/7/7	 豪州の原潜計画の一環で、士官3名が米原子力教育課程を修了したというニュースです。(下線は訳者)	岩崎洋一
2023 -136	2023/7/6	EXCLUSIVE: Navy tags LCS combining gear fixes at \$8 to \$10 million per ship	独占記事:海軍はLCSコンパインギングギア修理に1隻あたり800万ドル~1000万ドル必要と認識	Breaking Defense 2023/7/6	 Freedom級LCSで問題となっているコンパインギングギア修理に1隻あたり1000万ドル程度かかるようです。中期以降のFreedom級には適用されますが、初期の同級に適用するかどうかは決まっていません。費用は海軍とLockheed Martinが折半するようですが、日本であれば100%業者負担になるでしょう。Independence級には別途アップグレードが計画されています。	佐々木司
2023 -137	2023/7/13	Three Admirals Approved to Retire Amid Senate Confirmation Hold, Temporary Naval Academy Leader Chosen	上院議員による保留が続く中、3名の将官の退任が承認、臨時の兵学校長も決まる	USNI News 2023/7/13	 将官人事停滞の追加記事です。艦艇技術士官トップのNAVSEA司令官もその中に入っています。ガリニス中将は引退が承認され、後任にはPEO(空母担当)ダウニー少将が就くと言われていたようですが、指名承認を待つ間は海軍次官オフィス付の特別補佐官に異動し、臨時のNAVSEA司令官としてPEO(水上艦担当)のアンダーソン少将が就く予定、と読めました。なお、次期7F司令官はフレッド・ケイチャー少将が候補のようです。	岩崎洋一
2023 -138	2023/7/12	VCNO Franchetti Set to be Interim Navy Head as White House Stays Silent on CNO Nominee	フランケティ副 CNOが暫定的な海軍トップに就任、ホワイトハウスはCNO 候補について沈黙を守る	USNI News 2023/7/12	 トミー・チューバービルという、たった一人の上院議員(共和党、アラバマ州選出)のために、米軍の高官人事が止まっています	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -139	2023/7/1	The Lightning Carrier Isn't Either	ライトニング空母はどちらでもない	Proceedings 2023/7/1	 従来型の空母を念頭に置いた残存性能や弾庫容量にこだわれば、この議論はそのとおりで、説得力を持ちます。プロシーディングス誌7月号から。	岩崎洋一
2023 -140	2023/7/7	French Defence Procurement Agency unveils naval electromagnetic railgun project	フランス国防調達庁が海軍電磁レールガンプロジェクトを公表	Naval News 2023/7/7	フランスが海軍用の電磁砲開発に着手するようです。電磁砲は10年以上前から米軍で開発が進められてきましたが、大電力充電のため発射間隔が長いこと、砲身摩耗が極めて速いことなどから開発を中断しています。フランスではそのような課題を十分認識しているのでしょうか。我が国でも陸上装備研究所が電磁砲の開発を行っています。	佐々木司
2023 -141	2022/4/19	Naval Logistics: Still A Compelling Need	海軍ロジスティクス:依然として切実なニーズ	Naval News Staff 2022/4/19	 ロシアがウクライナに侵攻した2022年2月24日から早くも500日経過し、現在進行形の紛争は今後しかるべく教訓等が提言されることになるだろうが、その中でも戦争におけるロジスティクスは重要な要素であることは異論ないであろう。本件は元米海軍少佐、現在 Maritime Tactical Systems社CTOにより、海兵隊の水陸両用作戦におけるロジスティクスの重要性を主張し、物流展開の方策として高速USV(T38、T12等)を提示している。	工藤悟
2023 -142	2023/7/21	UPDATED: White House Picks Lisa Franchetti as Next CNO, Sam Paparo as INDO-PACOM CO	最新ニュース: ホワイトハウスはリサ・フランケッティを海軍作戦部長に、サム・パパーロをインド太平洋軍司令官に指名	USNI News 2023/7/21	 上院議員の保留はまだ続っていますが、ホワイトハウスは次期CNOなどを指名したというニュースです。次のインド太平洋軍司令官の職も引き続き海軍になるようです。	岩崎洋一
2023 -143	2023/7/19	Russian Navy Deploys Makeshift GPS Jammers To Warship For St. Petersburg Parade	ロシア海軍は、セント・ペテルスブルグのパレードで軍艦に一時しのぎのGPSジャマーを取り付けた	H I Sutton 2023/7/19	 ロシアは、艦船に陸上で使用されているGPSジャマーを装備したようです。実戦経験に基づくのですが、他山の石とならないようにすべきでしょう。	川原梅三郎
2023 -144	2021/9/1	Logistic Support Ships: European designs and programmes	後方支援船: 欧州での設計と建造計画	EDR Magazine 2021/9/1	 2021.11の記事ですが、欧州の新型補給艦の動向について纏められているため、参考になると考え紹介しました。欧州では海軍の任務行動地域が大西洋、インド洋、太平洋へと全世界に広がっていることを踏まえ、各国で後方支援船または戦闘支援船とも呼ばれる補給艦への要求も従来とは異なってきているようです。単なる燃料や弾薬等の補給任務にとどまらず、整備支援、医療支援、小型戦闘システムと指揮管制機能及びHS運用機能が共通要求事項となっている。また、推進システムについても環境負荷低減や燃費向上を図る推進システムが多くみられる。	清水隆
2023 -145	2023/7/24	25,000 Sailors, Marines to Prepare for Global Conflict in Large Scale Exercise 2023	25,000人の海軍と海兵隊が大規模演習2023で世界規模の紛争に備える	USNI News 2023/7/24	 海軍と海兵隊が行う大規模演習(LSE 2023)が、8月9日から18日まで全世界で実施されるようです。米海軍は演習の中で、退役した軍人を参加させて活用しているということが記事の最後に出ています。ライブ、バーチャルに加え、コンストラクティブな環境(LVC環境)というのも、この演習のキーワードです。	岩崎洋一
2023 -146	2023/6/26	Babcock showcases Arrowhead 140 Multi-Role Naval Platform concept with view to Type 32 frigate competition	バブコック社はType 32フリゲート艦の競争入札を視野に入れてアローヘッド140多目的型艦船コンセプトを披露	Navy Lookout 2023/6/26	 英国のほか、ポーランド、インドネシアへの輸出契約が結ばれたとされるType 31を、一層の多目的にしたコンセプト案が公開されました。バブコック社としては、流用設計のメリットを最大化したい意図があるのは当然だと思います。一方で、一隻も完成・運用していないType 31設計に対して、現時点で改変を加えることは、Type 31の設計(拡張余裕など)とその設計態勢に相当な自信があること意味していると思います。また、以前ご紹介したBAEシステムズ社のType 32案への専用設計によるアプローチとは対照的に見えます。両社の設計態勢に大きな差異があることも想像されるところです。引き続き、注目して参ります。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -147	2023/7/17	Understanding the timeframe for the AUKUS submarine programme	AUKUS潜水艦計画の概略計画の理解	Navy Lookout 2023/7/17	 <p>本年3月、米英豪3首脳から、2027年以降の原潜豪州配備計画が発表されましたが、購入と建造に関する計画が発表されました。すでに、豪海軍軍人の英艦への配属、米国での教育も開始され、この度、米原潜の購入と英国とのSSN-AUKUS共同建造の概略計画が示されました。豪原潜部隊の創設期の主力は米Virginia級になるようですが、豪州で建造するのは、英国との共同のSSN-AUKUSになる計画です。ただし、原子力推進システムの共用は確実視されているものの、武器システムは依然不透明なようです。豪海軍は米国製システムに慣れ親しんできた経緯もあり、今後の議論が待たれます。</p>	本山泰之
2023 -148	2023/6/28	Deal focus: Japan buys out leading semiconductor equipment maker for \$6.3bn	取引の焦点: 日本が大手半導体製造装置メーカーを63億ドルで買収	Naval Technology 2023/6/28	 <p>国内の報道では、半導体メーカー買収と今後の防衛力強化との関連は一切触れられていない。半導体不足は、家電製品の不足や自動車(新車)の納期の長期化などととらえがちですが、やはりこうした問題も含めて一部の関係者・専門家だけでなく社会全般としてきちんと認識しなければならないと思料します。</p>	高木康之
2023 -149	2006/8/1	Atomic Fish	核魚雷	Naval History Magazine 2006/8/1	 <p>昨日の北朝鮮軍事パレードで核魚雷が登場しましたが、米ソは約70年前から核魚雷を開発・配備していました。本記事はその核魚雷に関する興味深い論説です。17年前の米海軍歴史マガジン2006年8月号から。</p>	岩崎洋一
2023 -150	2023/7/1	The Navy Needs Tactical Nuclear Weapons ... Again	海軍は戦術核兵器を必要としている...再び	Proceedings 2023/7/1	 <p>プロシーディングス誌2023年7月号から、いよいよ海上発射戦術核兵器の再登板をうながす論説です。12ページからは同一筆者による、同盟国の米国の核の傘に対する信頼性を疑わせる内容の記事です。</p>	岩崎洋一